

# 海難救助活動レポート

平成21年における海難救助出動件数は11月末現在382件で、321人の人命救助と175隻の船舶救助に関与しました。全国の統計でみると、海難救助に出動した救難所員は延べ9,011人、救助船は延べ2,703隻、協力船は延べ416隻でした。これを昨年度の同時期と比較すると、出動件数では37件増加し、救助人命は6人の増となっています。出動した救助船は846隻の増で、出動救難所員は1,375人の増となっています。

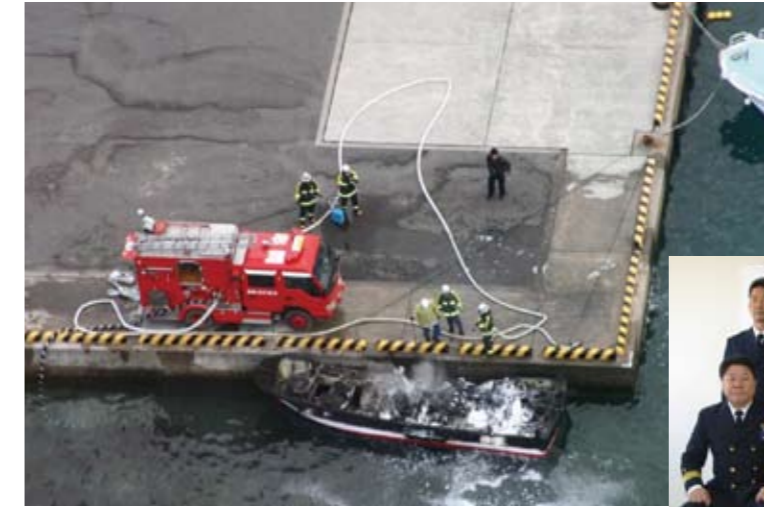
## 無人の漁船に気づき通報、救助を待っていた乗員を助ける NPO能登水難救済会珠洲救難所

平成21年9月22日午後4時頃、乗員1名の漁船A丸は漁場に向けて移動中、船体動揺によりバランスを崩し、乗員が海中に転落した。乗員が操船していないA丸は無人のまま航行を続け転落場所から遠ざかった。事故現場付近で遊漁中であつた珠洲救難所員が無人のA丸に気づき別の救難所員に連絡、能登海上保安署に通報した。海上保安署から捜索救助要請を受けた救難所は直ちに救難所員を出動させ、定置網の標識槽の上で救助を待っていた乗員を無事収容した。

NPO能登水難救済会  
珠洲救難所  
林 修三さん  
米谷 賛三さん



## 火災船から海面に逃れた漂流者を助け、消火活動にも協力 宮崎県水難救済会宮崎県南部救難所



宮崎県水難救済会宮崎県南部救難所  
薬師寺 雄さん



乗員1名の漁船B丸は平成21年11月5日午前5時40分頃漁場に向けて航行中に火災状態となった。乗員は身の危険を感じて、漁業用浮体2個を手に海面に飛び込み、漂流状態となった。午前6時頃、イカ釣り漁を終えて帰港の途にあつた救難所所属船漁船ゆき丸（乗員1名）は沖合に火災船を認めたことから救助に向かい、約30分後に到着。船内に人影がなかったことから付近海域を探したところ、漂流しているB丸乗員を発見、揚収救助した。また、ゆき丸は大納港内で消防本部に協力し火災船を港内まで曳航、消火活動に協力した。

## 波にさらわれた釣り人2名を救助、意識不明者1名をCPRで救命へ 和歌山県水難救済会紀南西部救難所すさみ支所



平成21年10月19日午前10時55分頃、和歌山県すさみ町江須崎付近の磯場から釣り人男性2名が波にさらわれ海中に転落、付近の釣り人より漂流しているとの通報を受け、正富丸が救助に向かった。転落者を発見し収容したが1名が意識不明のため、救難所員がCPRを実施したところ、意識の回復をみた。現場付近は局地的に大きな磯波が立つことがあり、一歩間違えば救助船が暗礁に乗り上げる危険がある中での救助活動であつた。また、漂流者1名は救助直後意識がなく危険な状態だったが、救難所員の適切な処置により無事救命された。

和歌山県水難救済会紀南西部救難所  
すさみ支所  
酒井 正行さん  
酒井 宏明さん

## 長年の勘で潮目を読み、6時間漂流していた遭難者を救助 高知県水難救済会宇佐救難所

平成21年9月27日、宇佐救難所は、高知海上保安部より横浪半島近くの白鼻沖13マイル付近でプレジャーボートから乗員が海中に転落し沖に流されたとの救助依頼を受けた。出動した救難所員の船は4時間近く捜索したが発見できず、帰港しようとしたものの、救難所員が長年の経験を踏まえて潮目を読み、事故発生より約6時間後に漂流者を見つけた。漂流者は救命胴衣をつけないまま、つかまるものもなく立ち泳ぎで浮くことに専念していた。救難所員は漂流者を救助し帰港、漂流者の生命に別状はなかった。



高知県水難救済会宇佐救難所  
所長 上野 浩功さん  
副所長 柿本 啓輔さん  
救難所員 鳴滝 清一郎さん

**宮城県水難救済会亘理救難所**

平成21年7月13日午後2時40分頃、宮城海上保安部から「岩沼緑地公園前浜に漁船C丸が乗り上げている」との出動要請を受け、亘理救難所長指揮のもと用船7隻に救難所員が乗船して出動した。同時期に陸上から現場に急行した漁協職員がC丸を発見した際、自動操舵、微速前進でエンジンのかかったまま砂浜に乗り上げており、

船内に乗員の姿はなかった。操業中の転落事故も視野に入れ、救難所用船7隻で付近海上を捜索したが、乗員は発見されなかった。その後救難所員がC丸に乗り込み自力脱出を試みたところ砂浜からの離脱に成功、用船1隻に曳航されて荒浜漁港に帰港した。

**和歌山県水難救済会和海救難所戸坂支所**

平成21年10月11日午後2時40分頃、和歌山県海上保安部より、海南市戸坂沖で5人乗りのプレジャーボートの機関室内で火災が発生、航行不能となっているとの情報があり、戸坂支所長ほか4名の救助員が漁船天神丸に乗船し出動。該船と会合し、直ちに船体が焼損する恐れはないが、機関が停止して漂流しておりこのままでは

付近の岩場に乗り上げてしまうと判断、該船を曳航し近くの戸坂漁港に入港、乗員5名と船体救助を無事終了した。

**茨城県水難救済会波崎支部救難所**

平成21年7月21日午前3時10分頃、港内にて漁船D丸の乗り揚げ事故発生。漁協より連絡を受けて波崎支部救難所員77名と救助船7隻が出動し、午前5時頃現場に到着した。

乗員は自力で陸に避難していた。D丸は道流堤に乗り上げており、漁船2隻で引き出そうとしたが不可能で

あった。そのため、オイルフェンスを張り油吸着マットにて処理を行った。その後サルベージ会社に依頼し、船体を陸に引き揚げた。

**山口県水難救済会黄波戸救難所**

平成21年9月8日午前6時20分頃長門市日置上今岬海上で、操業中の漁船G丸と漁場から港に向け航行中の漁船H丸が衝突、G丸船体が破断し船首部が転覆、船尾部が沈没しG丸の船長が行方不明となった。僚船からの通報および仙崎海上保安部の要請を受け直ちに現場に急行、G丸船首部を黄波戸漁港へ曳航するとともに、事故

現場付近の海底で船尾部および船外機を発見、揚収し黄波戸漁港に搬送した。

行方不明となったG丸船長については、漁船およびダイバー等により捜索していたところ、10日15時頃現場付近の海底から遺体で発見、揚収した。

**千葉県水難救済会金田救難所**

平成21年9月26日午後7時50分頃、木更津海上保安署より汽船Eが海苔養殖施設で遭難しているとの連絡が金田救難所に入り、所長は救難所員を招集。6名が救助船第18金協丸に乗船し、現場に向かった。

午後9時30分頃現場に到着したが、夜間により船体救出ができないため、汽船Eを海苔養殖施設に固定係留し

乗員9名を救出、中島漁港に帰港した。

翌27日、午前8時50分より船体の救出作業が行われ、午前9時30分に終了。推進機を点検し、航行に際して不具合がないことを確認した。

**大分県水難救済会香々地救難所**

平成21年9月5日午前7時5分頃、救難所員1名他1名が乗船した泰栄丸が豊後高田市長崎鼻海水浴場沖合に設置されていたゴミ流入防止ネットの撤去作業を行っていたところ、海上を救助を求めながら漂流する浸水沈没船I丸を発見したため直ちに急行。漂流者2名を揚収し救助した。I丸は冷却用海水が揚がらなかったことによる機関

のオーバーヒートに加え、一部水面下にある塩ビ管製排気管から海水が船尾船内に流入し、船倉内と機関室との間に設けられた壁孔から海水が機関室に侵入したことにより午前6時45分頃沈没したと推定される。

**千葉県水難救済会房州ちくら救難所**

平成21年10月14日午前4時30分頃、忍戸沖150m付近にて漁船F丸が操業中、エンジンがストップして起動なくなり、北東の風に流されて岩礁に近づいた。近くの漁船が乗組員を救助したが、F丸は間もなく岩場に乗り揚げ、横転状態となった。通報を受けた房州ちくら救難所長は所員を招集したが荒天かつ干潮時であったた

め、いったん解散。昼過ぎ、天候が回復し満潮となったことから再び所員を招集し、現場に集合。F丸にロープをかけて岩場から引き出し、そのまま近くの海岸へ引き揚げた。

**岡山県水難救済会日生町漁業協同組合救難所**

10月21日午前6時5分頃、玉野海上保安部から、日生漁港内で漁船が燃えており、乗員が行方不明になっているため出動を願いたいとの要請を受けたため、救助船1隻に救難所員3名が乗り組み、出動した。

同じ通報を受けた消防組合の消防隊も現場に到着したが、火災船は沖合で燃えており放水消火活動が困難で

あったことから、救難所の救助船に消火ポンプ等の資器材を載せ、消防隊員とともに消火活動に当たり、鎮火させた。なお、火災船の乗員は、僚船により救助されていたことが判明した。